

ガールズケイリン誕生のほぼ1年前 そのレースが初めてファンの前に姿を現した



2011年5月にガールズケイリンの1期生は102回生として、当時の日本競輪学校（現在は日本競輪選手養成所）に入校。訓練に励む中、彼女たちは寛仁親王杯の3日目と最終日に、弥彦競輪場でエキシビションレースを走りました。勝ち上がり戦だったんですよ。ファンの前で走るのももちろん初めて。

勝ち上がったガールズ育成選手たちの戦いには加瀬加奈子、藤原亜里、中川諒子（現在は熊本）の地元勢も参加。GIの最終日だから超満員。ファンの一番人気は弥彦村で生まれ育った藤原。どう見ても小学生以下の子供たちが「あいり〜」って叫んでる。そこそこ年上なだけども。でも、これが、この競輪場の雰囲気。

僕は加瀬の先行を藤原が差したと記憶していたんですが、自転車競技者の育成を目的とした「クラブスピリッツ」というチームで、指導している小川隆さんが、「加

瀬の先行を藤原がまくって勝ったんだよ」と教えてくれた。レース後の彼女たち、はしゃいでいたなあ。この1年後、1期生たちは2012年の7月1日に平塚競輪場でデビューすることになる。

ちなみに女子競輪は1949年から1964年まで行われていた。選手の力に差がありすぎて、2枠単や2枠複の時代では配当的につまらなかったと聞いたことがある。

そして本格的にガールズケイリン復活の機運が高まったのは2005年。その年に弥彦競輪場で生まれた、全国初のレディースケイリンレーシングチーム「4CRIS」も復活に向けた流れの一助になったと思う、たぶん。

▽弥彦競輪 寛仁親王杯

世界選手権記念トーナメント

思いつくまま回顧録 第4話

【新潟スポーツ 信氏 忠】

